



▲採取した生物から川の水質状態を調べます。カワニナ、シジミ、小魚などたくさんの生き物がみつかりました。

親と子の水辺の教室

8月3日、「親と子の水辺の教室」が開かれ、寝太郎公園ゆめ広場近くの石束川で網やバケツを手にした親子が水生生物の採取に取り組みました。真夏の太陽のもと、冷たい水の感触を楽しみながら、参加者は石の裏や川底にいる様々な生き物を観察し、身近な川の生態系を学ぶとともに、水環境についても理解を深めていました。



▲「回ったよ。」くるくると回るコマに喜びでいっぱいの参加者。夏休みの楽しい一日を過ごしました。

夏休み造形教室

8月6日、市民館で「夏休み造形教室」が開かれ、たくさんの親子が身近な材料を使つてのコマづくりに挑戦しました。短く切った菜箸に紙でできたテープを巻き付けていく作業に取り組む参加者の表情は真剣そのもの。根気のいる作業の末できあがったコマがくるくると回ると、会場のあちらこちらから喜びの声があがっていました。



▲元気になったおもちゃを手に、にっこり。思わず笑顔がこぼれます。

おもちゃ病院

7月26日、小野田市民病院で一日限りの「おもちゃ病院」が開院しました。当日は、けがをしたぬいぐるみや壊れたゲームなどを抱えた子どもたちが来院。診察中も、お気に入りのおもちゃを心配そうに見守っていた子どもたちですが、治療が終わり、すっかり元気になったおもちゃを手にとると、「ありがとう」とうれしそうに病院をあとにしていました。



▲夏の夜に、豪快に燃え上がる「土手まつり」の火。

土手まつり

8月12日、江戸時代から後潟地区に伝わる伝統行事「土手まつり」が行われました。この行事は、海をせきとめ開作でつくられた同地区で、堤防の決壊や稲につく害虫といった災いを祓うことを目的に始まったとされています。今年も約40人の参加者が、手にした松明で川沿いの土手に火を放つと、地区の安泰を願った炎はまたたく間に燃え広がり、夏草で被われた土手一帯を赤く包み込みました。